

とうきょう すくわくプログラム活動報告書〈令和8年度〉

法人名	社会福祉法人 崇仁会
施設名	北沢みこころ保育園
所在	世田谷区北沢 4-16-6
クラス	めばえ組 0歳児

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然

〈テーマの設定理由〉

戸外に出ると風を感じて表情を変えたり、草花や木の葉に手を伸ばしたりする姿が見られる。また身近なものに触れて感触を確かめようとする姿も増えてきている。園周辺や公園で、自然に触れたり、植物の生長を見たりする中で、子どもたちの興味や気付きを大切にしながら自然との出会いを楽しめるようにしたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

- ・5月上旬：ミニトマトの苗を植える。
- ・5月～7月：野菜の生長を保育室や園庭から観察する。
- ・7月以降：野菜を収穫し、加熱して柔らかくしたミニトマトを潰して、感触を楽しみながら食への興味に繋げる。

3. 活動のために準備した素材や道具

- ・ミニトマトの苗
- ・レース状の布
- ・プランター
- ・培養土
- ・ジップロック

4. 環境設定及び配慮事項

- ・子どもたちがお部屋からも見やすい位置にミニトマトのプランターを置く。
- ・ミニトマトをそのまま口に入れないよう注意深く見守る。また、実ができてきたらカバーをかけて誤飲防止に努める。
- ・ミニトマトに興味を示せるように日々「大きくなったね」「赤くなってきたね」など声をかけていく
- ・園児の誤飲を防ぐため、花が咲き始める時期に全体にレース状の布を掛ける。

5. 探究活動の実践

《活動内容》

- ・ 5月11日 〈ミニトマトの苗を植える〉

保育者と2歳児が苗を植える様子を抱っこされながら見る。

- ・ 5月～7月 〈ミニトマトの観察〉

毎日のように野菜を見る。

- ・ 6月16日 〈ミニトマトの収穫〉

初めての収穫。保育者に手を添えられながら一緒に収穫する。

- ・ 7月10日 〈ミニトマトの感触を楽しむ〉

加熱したミニトマトをジップロックに入れて手でつぶして感触を楽しみ、食への興味に繋げる。

《活動中の子どもの姿や声・保育者との関わり》

- ・ 5月11日 〈ミニトマトの苗を植える〉

「ミニトマトだよ」と保育者がミニトマトの苗を見せると“これはなに？”と不思議そうな表情を見せる子どもたち。また、何か分からないものを見て、眉間に皺を寄せて戸惑った表情をする子もいた。



- ・ 5月～7月 〈ミニトマトの観察〉

○大きくなった葉

大きくなってきたミニトマトを保育者に抱っこされながら近くで見てみた。苗を植える時には不思議そうな表情をしていた子どもたちも、少しずつミニトマトが身近なものになってきた様子がある。保育者が「葉っぱ大きくなってきたね」と声をかけると葉っぱに触れてみる姿が見られた。苗を植えた時には戸惑っていた子も、興味を示して葉っぱに手を伸ばしていた。



○トマトの実ができてきた

トマトの実ができてきて、保育者が「トマトの実ができているよ」「まだ緑色だね」など声をかける。子どもたちは緑色のミニトマトを眺めた後、葉っぱに手を伸ばしていた。実よりも葉っぱに興味がある様子だった。



○お部屋から観察

「ミニトマト大きくなってきているね」「たくさん実ができていいね」など保育者が窓の側でミニトマトを見ながら呟いていると、保育者の側にきて一緒にミニトマトをお部屋から観察していた。「あ！」と声を発しながらミニトマトを指さすことがある。



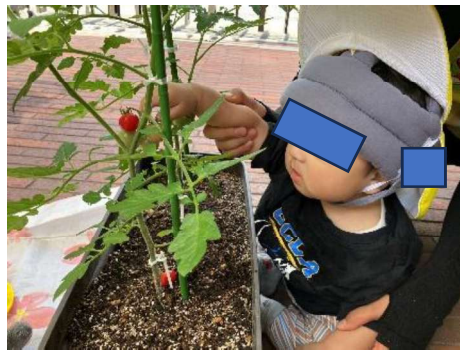
○ミニトマトが赤く色付く

ミニトマトが赤く色付いてくると子どもたちはより、実の方に興味を示す子が出てきた。「赤くなってきたね」と保育者が声をかけたり「美味しそうだよ。パクパク」と保育者が取って食べるフリをしたりすることで、指差しを多くしたり保育者の真似をして食べるフリをしたりして喜ぶ姿が見られた。



・6月16日 〈ミニトマトの初収穫〉

初めてミニトマトを収穫した。「触っていいよ」「赤くなったね」など保育者が声をかけると、赤くなったミニトマトをじっと見つめる姿が見られた。子どもによってはトマトよりも葉っぱや土に興味があるようで、触って感触を楽しんでいた。ミニトマトの収穫では、保育者が手を添えながら一緒に千切ってみた。しっかり掴んだからか、一つは手の中で潰れた。何が起こったが分からずじっと手の中を見つめて不思議そうな表情をしていた。もう一つも保育者と一緒に収穫し、ミニトマトが取れたことが楽しかったようで手を叩いて喜んでいて。「収穫できたね」と保育者も一緒に喜ぶとよりニコニコと笑顔を見せていた。



欠席していた子は、別日に初収穫をむかえた。最初は触ろうとしなかったが、保育者の手の平にミニトマトを乗せておくと、そっと触れてみることができた。



・7月10日〈食育 ミニトマトの感触を楽しむ〉

加熱したミニトマトをジップロックに入れたものを用意した。最初は恐る恐るといったように指先を伸ばしている姿が見られた。保育者が手の平で潰しているのを見て、子どもたちも真似をして手の平を使って潰すことができた。少しひんやりとしていて、触れてみた瞬間に保育者の顔を見て不思議そうな顔をしていた。「つめたいね」「プニプニしているね」など保育者が応えると、笑顔を見せていた。豪快に手を大きく動かして潰すことを楽しむ子もいた。上記の収穫した時の様子を部屋に貼っていると、時々指さす姿があった。保育者が「みんながとったミニトマトがこれだよ」と伝えていった。

○ミニトマトを味わってみる【ラタトゥイユ】

その日の給食で、自分たちが潰したミニトマトを調理してもらった。「みんなが潰したトマトだよ」「美味しいね」と保育者の声かけに、ニコニコしながら完食していた。



6. 振り返り

テーマを「自然」とし、ミニトマトの栽培から観察、収穫、感触遊び、喫食まで継続して取り組んだことで、子どもたちは植物の生長を身近に感じながら興味や関心を深めることができた。初めは苗を見て不思議そうな表情を見せる姿や様子をうかがう姿が多く見られたが、毎日観察を重ねる中で葉に触れたり、保育者の言葉掛けに合わせて実を指差したりする姿が増え、自然に関わろうとする姿が見られるようになった。

実が大きくなり色付く様子や収穫を経験したことで、植物は育ち変化していくことを、五感を通して感じることもできた。また、食育のミニトマト潰しでは、初めは慎重に触れていた子どもも、保育者の姿を見て安心し、自ら手で潰したり感触を確かめたりする姿へと変化した。さらに、自分たちが収穫したミニトマトを給食で食べる経験に繋がったことで、食材への親しみや食への興味を育むことにも繋がった。

保育者が子どもの気付きや興味に寄り添いながら言葉を掛け、繰り返し観察できる環境を整えたことで、一人ひとりが自分なりの方法で自然に親しみ、探究する姿が見られた。今後も季節ならではの自然物や植物に触れる機会を取り入れ、子どもの「見てみたい」「触ってみたい」「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、主体的な探究活動へ繋がっていきたい。